

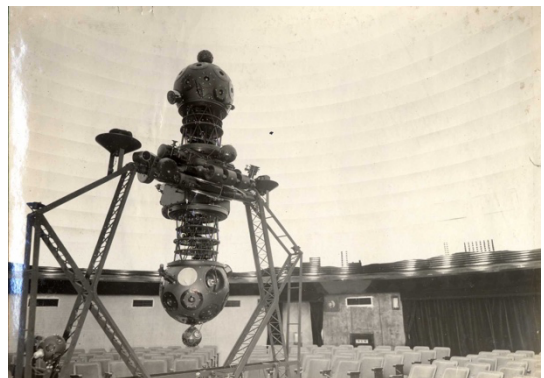
57. 科学のおはなし「プラネタリウムで宇宙を楽しもう」

大阪市立科学館 嘉数次人

空に輝く太陽や月、星の位置は、時間とともに変わっていきます。人々は昔から、天体たちがいつ、どのような位置に見えるかを知りたいと思いつけてきました。その思いを実現した機械の一つがプラネタリウムです。

丸い天井に本物そっくりの星空を映し出すプラネタリウムは、今から 100 年前の 1923 年にドイツのカール・ツァイス社が発明し、第一号機はミュンヘンのドイツ博物館に設置されました。ミュンヘンにおける過去・現在・未来の星空を再現するプラネタリウムを見た人々は、その精巧さに驚きました。

その後、プラネタリウムは改良が重ねられます。第一号機はミュンヘンから見た星空しか再現できませんでしたが、1926 年に登場した改良型「カール・ツァイス II 型」は、北極から南極まで地球上のどの地点から見た星空でも再現できるようになりました。まさに、時間と空間を越えるシミュレーターが完成したのです。そして、日本で最初に登場したプラネタリウムもカール・ツァイス II 型で、1937 年に大阪市立電気科学館に設置されました(写真)。



その後、日本を含め各国でプラネタリウムが作られ、日々進化しています。現在では、プラネタリウムが作り出す星空はリアル感を増していますし、コンピュータを使った最新のシステムでは地球を飛び出して遠く宇宙の果てまでも出かけることができるようになりました。

講演では、プラネタリウム 100 年の歴史や星空を映し出すしくみ、プラネタリウムで取り上げる話題など、プラネタリウムについての色々な話題をご紹介します。

プロフィール：

1990 年 大阪教育大学大学院修了、同年大阪市立科学館学芸員

現在 大阪市立科学館学芸課長

科学館では、プラネタリウムの解説を中心に、科学に関する様々な普及事業を行っている。また、科学史を専門として、江戸時代の天文学や蘭学などを中心とした研究を行っている。

主な著作：

『天文学者たちの江戸時代』、『伊能忠敬測量隊』(共著)、『木村兼葭堂 一なにわ知の巨人』(共著) など